

障害毎の特長を学習

ほたる草

く者 史郎 一
つ任 浦 5
て責 杉 6
く行 6
ふ発 7
代表 7



理学療法士の立場から 住宅改善は始めは最低限で



秋野賢一氏

二月定例学習会
平成9年2月1日
財団法人住友病院
理学療法士 秋野賢一氏

今回は理学療法士としての立場から、秋野氏がバリアフリーその他貴重なお話をされた。まず、ハウスアダプテーション(HOUSE ADAPTATION)とは?住宅改造、住宅適合の意味とこと。理学療法士の仕事とは?WHOの国際障害分類で機能障害、能力低下、社会的不利、分類される過程の機能障害から能力低下を防止することがその仕事である。話はとんで、高齢者が家の中で転倒する場所はどこか?3才代で最も多いのが階段で2%、次が居間で1%、台所へと続く。3才代はどうかという氏の質問に対しての会員の返答は一番目から三番目までの場所が全くはずれて、一番が寝室、二

番が居間、三番が廊下であった。意外なことに段差のない平的な場所が転倒し、けがをすることを知った。ちなみに3才代は居間、階段、台所。次に疾患にみる障害の話があった。

脳卒中片麻痺
あまり聞かないが、高次脳機能障害というものがあ、これは右脳障害の左片麻痺の人に多く、失行、失認という兆候がある。失行とは例えば着衣失行というのがある。衣服を着る時袖がせない等々。失認とは、空間や身体半分が認識できず、立つと体が曲がったり、いつも顔が右を向いていたりする。手すりがあっても認識できない場合もある。右片麻痺の人には失語症の傾向がある。

人工関節置換術後
この場合、関節の可動に制限が出る。例えば股関節の場合80度以上曲がらず、膝関節では100度前後が限界のため、椅子から立ち上がることができない。

慢性関節リウマチ
一番の特徴は病態が進行するということである。最初は膝、次に股関節。そして手、最後は手首の尺側変形が現れ物を置くに手すりの取り付け

脊椎損傷
病状は固定して、悪化することはない。全ての動作は上半身だけの力が頼りになる。

地域における在宅介護を考える
二月定例学習会
平成9年2月6日
長吉西地域在宅サービスステーション
施設長 石井順一氏

「日本の住宅環境では在宅介護はできないのでは」と思ったこともありません。いろいろな「せん」といながら「せん」の人は腰背筋と股関節が極端に弱く、体の重心が後ろへずれ後方に転倒することが多い。また反射活動の低下による転倒も多い。平らな廊下を歩けないのに、階段は登れる。次に手すりの取り付け

氏が施設長を勤められるサービスステーションは9年10月1日オープン。ショートステイとデイサービスで初日から毎日約20人が利用されている。初日からそんなに利用者があるなんて、いったいどんな手を使ったのかと、みんなが驚いたこと。がむしやらかな感じの中にも周到な計画性もある。在宅介護



石井順一氏

支援センターの役割と進め方について次のように話された。
地域に根をはって地域の人々と共に在宅介護を支えることが必要と考える。地域と密着した泥臭い人間関係や、地域のボランティアさんの協力が大きな力になる。所内の喫茶店もボランティアの協力です。職員でやった

ことば・コトバ
力、サービスへの不服申し立てを身近に設置できるか、サービスの質のチェック機能など。
実施までに解決されなければならぬものも多い。

在宅介護にかける情熱 地域との密着が大切

「介護保険法」は、9年10月9日に成立し、2000年4月1日から実施される。保険料は60歳から65歳未満の「第2号被保険者」からは医療の保険料と一緒に徴収され、65歳以上の「第1号被保険者」からは、年金から天引きされる。

この保険料と同額のケアプランを作成し、サービス利用をしたのち、30日以内に要介護認定を受けることもできる。

課金は、サービス基盤の整備が自治体によって違いが出る点、保険料徴収の不安、要介護認定の公正さ、ケアマネージャーの

なる。被保険者が審査会に申請し、要介護度が決まれば、本人や家族が「サービス事業者」に依頼か、「介護支援事業者(ケアマネジメン ト機関)」にケアプランを作成してもらおう。ケアマネジメン ト機関に

ふくちゃん NO.4 萩野光

最新式 食事サービスロボット Qend

ションの場としてホームページも開設されている。福祉の専門家への苦言の一言も印象に残りました。いわく、「よく、福祉の心がわかっていない、という言い方をする人がいるが、なにも福祉の心が特なものとしてあるわけではない。人に対するやさしさがベースなのだ」と。

http://www.kaijo-osaka-hgshh.ntr.ocn.ne.jp/ 福祉の専門家への苦言の一言も印象に残りました。いわく、「よく、福祉の心がわかっていない、という言い方をする人がいるが、なにも福祉の心が特なものとしてあるわけではない。人に対するやさしさがベースなのだ」と。(記・木村多加緒)

日曜大工講座

工夫をこらした作品に満足

今回の日曜大工講座は、昨年10月18日・25日並びに11月8日・22日の4日間、大阪女子国際専門学校で行われた。先の二日間は初級編、後の二日間は中級編という構成で、参加者は20名弱であった。

初級編の初日は「物づくりの楽しみ」並びに「道具の種類と使い方」の講義で始まり、続いて実技に入った。製作はティッシュボックスまたはキッチンタオルホルダー作りであった。材料はあらかじめ部材に加工されていたが、皆それぞれに工夫をこらし、一所懸命取り組んでいた。二日目は初日の続きで、作品の完成をめざし、なんとか完成させることができ、皆満足そうな顔をしていた。



塗装の講師ペリー氏

であったが、初級編に比べて、寸法測定、記入(墨付け)作業が必要になり、より一層高度な技術が必要とされるものであった。二日目は「自然塗料について」の講義があり、続いて塗装作業の実技にはいった。自然塗料は粉末であったので水に溶かしてよくかき回し、更に材料の表を研磨することで、塗りやすく、きれいに仕上がるのである。出来上がった作品は各自家に持ち帰ったが、とても満足足りた気持ちになったようである。(記 野山泰一)



ハケはこう使います。 Do you understand?

10月26日、大阪教育大学付属平野小学校で催されました。当日は天候にも恵まれ、知的障害者活動の一助の催しで、人も多く、その一角に自由発想のものづくり子供教室と、体験学習の場を設けました。

大和川園 「ふれあいまつり」

親子連れを始め、小学生から中高生まで、所狭しのおおにぎわいで、もの作りに挑戦してもらいました。ものを作る機会の少ない社会の中にあつて、子供たちは様々な木の材料で、ノコギリ、カナヅチ、カンナ、穴あけ、

各地で木工教室開催

子供たちがもの作りを体験

浪速区 福祉ふれあい広場

平成9年2月6日浪速区民センターで開催された「福祉ふれあい広場」に参加。幼稚園児たちの描いたお父さん、お母さんの絵が万国旗のように頭の上に翻り、その下で「ふくてつく」の木工教室は店開き。早速、絵を見に来たおばあちゃんとお孫さんが自動車作り挑戦。出来上がった可愛い自動車が出来栄えに、お母さんも来られて息子を褒めちぎるほほえましい風景もありました。リーダーに連れられた子供会のメンバーがどっと押し寄せ一時は超満員。クリ



準備万端いつでもどうぞ

スマスツリーを作る若い女性のグループなど、それぞれに完成品を大事に抱えて満足顔で帰っています。(記 三浦久子)

2月23日恒例の池島まつりの子供木工教室に参加しました。専用の大工道具まで前準備され、机、コーナー掲示など抜かりのない準備ぶりでした。驚いたのは参加者の人数。住宅街の中にあるという立地条件もあると思いますが、池島公園が人の波で埋まり、はじまりからずっと人が出がたえないという感じでした。木工教室は三時ごろから店開きしましたが、子供たちが群がり、1時ごろには釘がない状況。もっぱらボンドだけが頼り。おまけに、ふくてつ

池島まつり

くのおじさんを頼りにする子供が多いこと。ここを切れ、鉛筆で書いたりに切ってくれなどの要望多発。ここは子供が木工をするところで、おじさんを工作機械のように使うところではないのです。(記 木村多加緒)



子供たちも一心不乱

木地の仕上げが塗装のポイント

11月23日OCATで行われた「作業所あつまれ」に参加しました。音楽ライブやフリーマーケットなどがあり、にぎやかな雰囲気でした。ふくてつくでは子供木工教室を開き、とても盛況で金槌を精一杯振り下ろしたり、ペトペトになりながらボンド付けをしたりと楽しそうでした。私は寸法が合わなかったり金槌で手をたたいたり、失敗ばかりであまりお役に立てなかったのですが、いろいろな方と接することもでき、とても楽しく過ごさせてもらいました。(記 岡沢泉)



誰もが参加できるはがき絵の製作

去る2月2、3日第3回全国身体障害者スポーツ大会「ふれ愛びつく大阪・ふれ愛ひろば」(長居公園)に「ふくてつく」も子供木工教室を出店した。「ふれ愛ひろば」は、ライブコンサート、他、食いだおれ、バザーゾーン、体験ゾーンに多数の出店が賑わった。わが木工教室も朝から大盛況。時には、夢中になって製作している親子に教室を占領されてしまったよう。

「ふれ愛びつく大阪」

印象に残った生徒を幾人か紹介すると、初めてトンカチを持った1年生・自分で作ったクマさんに「このこぎりを夢中で教えるおばあさん・2日間皆勤の2年生の男の子・日曜大工講座卒業生の母娘・置物製作に夢中のお父さん・来年の予定を詳しく聞いて帰ったお母さん。」「ものづくり」の楽しさを十二分に味わった親子は作品をしっかりと抱えて、幸せそうに帰っていった。この子供達の中から明日の「ふくてつく」のたのしい会員が生まれることでしょう。夕方、少し離れた「ふれ愛



おっ! 結構うまくいくもんだ

ステージ」から流れてくる上田正樹のエンディングコンサートを聞きながら後片づけにとりかかった。全員少し疲れたが、何かをやり遂げた後の喜びをかみしめながら家路について。(記 三輪博孝)

高齢社会を身近に体験

ほたる草

く者郎一
っ任史
て責杉浦
く行表：5
ふ発代：6
表：7



見「たえのある各コーナー」

ATCエイジレスセンター

1月定例学習会
平成10年1月10日
ATCエイジレスセンター見学会

エイジレスセンターは大阪南港のアジア太平洋トレードセンター(ATC)ビル内のITM棟11階にあります。広さ5000㎡という広大なスペースに、高齢者や障害者のためのさまざまな設備や用具、サービスが紹介されています。お年寄りやその家族だけでなく若い人も高齢社会を身近な問題と考えられるようにいろいろなコーナーが用意されている提案スペースとなっています。

当日はボランティアの女性の詳しい説明を聞きながら、各コーナーを見学しました。エイジレス体験ゾーンでは2台の車いすに交代で乗り、住宅内をはじめ駅、銀行、コンビニなどにあるバリアとそれをなくす工夫を体験しました。設備メーカーや自動車メーカーの最新機器を操作したり、試乗したり、また、日ごろ見る機会のない海外の福祉製品に実際に触れることができ、とても勉強になりました。

その後、積水ハウス株式会社の協力で「家づくり館」も見学することができ、大変身のある見学会となりました。



車椅子でも使いやすいテーブル

同センターでは説明員の方が親切に説明してくれまます。また、毎週末さまざまなイベントも開催されています。昨年12月には地下鉄中央線とニュートラムがつながり、大変便利になりました。今回参加できなかった方も是非足を運んでみてください。また、同階のエイジレス工房には「ふくてつく」のメンバー十数名が事務所を構えられていますので、運が良ければお茶の一杯にでもありつけるかも???

(記・矢中史美)

高齢社会と日本の住環境



加茂みどり氏

2月定例学習会

平成10年2月7日(土)
大阪ガス(株)商品開発部企画推進チーム
NEXTプロジェクト
加茂みどり氏

加茂氏は現在、商品開発部で「バリアフリーの生活」を概念に掲げ、リフォーム相談に携わる。職務の中で保つてきた事例等を交え説明されたが、時折、共に生活している高齢の父親の暮らしが話題に挙がり、温かい人柄が窺えた。終了後、ふくてつく会員より

今後の加茂氏の大阪ガスでの取り組みに期待する意見や質問が挙がり印象に残った。また、「誰にでも住みやすい家」を意図に作成された大阪ガス住宅設備のパネルプロジェクト「お達者」の人々への予測される生活の不便と対策を、語りかけるように述べわかりやすいと感じた。

日本の高齢社会の現状
・他国に比べ日本の高齢化が超スピード
・人生20年から80年へ老年社会(7%)から高齢社会(20%)への移行
日本25年アメリカ20年

・生活水準の上昇や医療の発達によって、加齢による全体的な衰えはあっても健康状態は良好で、ほぼ常態生活を営むことができる高齢者の比率も上昇した。
・少子社会の到来
・加齢に基づく諸機能の低下(視覚、聴覚、運動感覚、皮膚感覚)環境条件の変化に対する反応の速さや、順応性と抵抗力および回復力の減退
・平均寿命20歳当時、社会的に容認されていた住宅のため、外出しにくい。また、近隣との付き合いなども滞りがちな

・日本の住宅は、一人に割り当てられたスペースが狭い。
・高齢者の視点から生活環境を整える。
・段差はできるだけなくし、移動のためのスペースや幅を考える。E・X・玄関の入口(あがり框)の段差は少なく、身支度しやすいように高さセンサーの椅子を用意する。寝室とトイレは、1セットで対策を考

るものを選ぶ。E・X・沸騰消火機能、温度調節機能を備えた調理器具、調理器具のボタンの置が明確(表示が明確)
② 他の部門と連携・住宅施策と福祉施策の連携等
③ 高齢化に対する住宅施策の取り組みはまだ歴史が浅い。が、経験の蓄積を増やし課題に取り組む姿勢が今後重要となる。
④ ライフライン確保の現状
以上が学習会の内容だったが、説明を聞きながら

大まじめ夢多き研修会

初期診断ミーティング

高島町「ほたる苑」にて

2月23日、2日久しぶりに訪れる「ふくてつく」のメンバー。思いおぼいにしたボランティア。縁は？あのカーテンレールは？あの壁は？あの木々や花たちは？

そして一番の関心はそこに生き生きと住んでいるであろう宇賀神女史その人であった。JR近江高島駅に迎えてくれたのは、運転ボランティアなる3名の紳士と

なり、環境を汚さない様々な取り組みの中から、太いきずなが生まれ人達だ。駅を降りたたん「一本参った」の感堵の色。さっそく友達と作ってくれたというおにぎりや、庭で育てた大根入り粕汁のふるまいを受けた。ほたる苑は広々と広がる田園の真ん中。200戸の思いおぼいの家が並ぶその一角にある。

夏には蛍が舞う安曇川を左に、前方に琵琶湖、背に山々。出迎えて

くれば彼女は、ますますスポーティでチャームグ。「あ、ここに彼女の居場所がある」と一同安堵の色。さっそく友達と作ってくれたというおにぎりや、庭で育てた大根入り粕汁のふるまいを受けた。ほたる苑は広々と広がる田園の真ん中。200戸の思いおぼいの家が並ぶその一角にある。

いて集中的に議論がなされ、チェックシートの改定案が出来上がる。かくて大まじめで、夢多き研修会は、足がしびれるのも、日が沈むのも忘れて続いたのであった。住環境にやさしい生き方を実践して、我々より一歩先をゆく「ほたる苑」。実践の発信基地となつてゆきたい、と熱っぽくかたる彼女は、青く広い空とともにまぶしく。

からだにやさしい空調や暖房の計画をたてる。住まいの中に、極端な温度差を作らない。(ヒートショックをできるだけ避ける暖房計画)E・X・サニタリー暖房は、安全で簡単に使え

(記 新開加代子)



高島町「ほたる苑」にて



大阪ガス住設リフォーム手帳「お達者」の人々」より

がら①②③が全て整えば生活は便利になる。だから、最新設備を使いこなすことが出来るのか、生活の質はよくなるのだろうか?と疑問がわいた。「歳月の流れにより一人人をとりまく環境は変化する。また、世代によりニーズは異なる。だから同じ建物を建ててもその中で暮らさしぐりは違ふと予測する。その事を配慮し住宅問題の課題に係わる事が、今後重要になると考える。実態調査などを行い生活様式を把握することはバリアフ

原点を省みたバリアフリーへの住宅展開を加茂氏はじめ建築部門に携わる人々に期待したい。(記 河辺久仁子)

アイデアや技術の結集 元氣エネルギー21シニアフェスタ

関西電力主催のフェスタは1月25日(土)にOBP(大阪ビジネスパーク)ツインビルの1階ギャラリで、「たくさんの人のエネルギーでシニアの、そしてみんなの明日をもっと元気にしたい」という願いで行われました。

全国の小学生からシニアの方々、福祉に関わる方々、さまざまなボランティアグループ、研究機関、学校、そして数多くの企業から、アイデアや技術、作品、熱意、力が持ちよられていました。「ふくてつく」もその中でシニア暮らしのクリニックのコーナーを受け持ち、体力測定や住まいづくりのアドバイスなどを実施しました。

展示物として階段や手すり(材質や太さや塗装など)風呂場での入浴補助器具、火災報知器や消火器などをパネル展示しました。高齢者疑似体験をされている方たちへ



体験装具をつけて入浴体験

使用の説明をしたり、階段昇降時、入浴時の補助器具使用時の身体に対する負担の違いなどを説明し、納得していただきました。

来場された方の中で、日本各地でボランティア活動をされている方たち、団体見学が行われていた時のことですが、実際に手にふれられ、手すりの端が壁の方へ曲げられているのを見て、安全性と持ちやすさを十分考えた作りだと感心しておられ、説明している私も自信と嬉しさでいっぱいでした。

会員の方が取り付けた手すりにも細心の注意と思いやりが生かされていることを知り、今後ますます会の発展と活動が必要とされる方たちへ理解されることを痛切に感じます。(記 平松昭雄)

今回のイベントでは、一の方にも疑似体験を

A 浴室に、てすりとするのを設置してほしい。

B 市営住宅4階で一人暮らし。糖尿病による手足のしびれのため、自力では立ち上がりにくく、床をはって移動するときもある。他県内にいる娘が週1回、ホームヘルパーが週2回訪問している。

C 据え置き式浴槽で大人の足が上がる(介護者の負担も大きい)ため、バスボード使用による入浴スタイルを前提に、手すりを設置する。すのこの高さは、洗い場の高低差が大きい(排水口を中心に最大約10cm)、アジャスター調整により足

D すのこについては、前もって新開氏が製作していたので、当日現地の仕事はやや多かったにもかかわらず、3人で分担して約5時間で完了した。解決策のとおり完成し、本人と家族の方に使い勝手を何度も確認してもらった。賃貸住宅のため家主の許可をもらうのに大分時間がかかったが、やっと完成し明日から喜んでもらえると思うとこちらまで何かしら

事例報告 待ち望んだ改造 Kさん80才(女性)

事例報告

A・ニード
B・日常生活と家庭状況
C・解決方法
D・改善後の状況と考察

嬉しくなってきた。(新開・河元・三輪・竹原・鎌田)

定例会で発表



Yさん80才(男性)

A 玄関の段差解消と、浴室とトイレに手すりを付けてほしい。

B 1軒家で家族と同居。左半身麻痺で、杖とてすりで自立歩行は可能。介護は奥さんが行なっているが、本人は背丈も高く大柄なため、負担も大きいと思われる。

C 本ケースは玄関の段差解消に「ふくてつく」の英知が注がれた。段差は約30cmでスペースは広い。今まで降りるときは、一旦お尻を床に置いて(奥さんが後ろで支えているが、ドスンという表現があてはまる)から移動し、足を地を下ろしてから立ち上がる(この右側にあるガス管(縦)を持つ)。上がるときは、机(スチール製の事務机で床に置いてある)の天板を支えに一気に立ち上がっていた。



納得いくまで確認を



すのこは微調整が難しい



場場の安定性を確保する。なお初期診断により、トイレ(洋式)立ち上がりのための手すりを設置する。

D すのこについては、前もって新開氏が製作していたので、当日現地の仕事はやや多かったにもかかわらず、3人で分担して約5時間で完了した。解決策のとおり完成し、本人と家族の方に使い勝手を何度も確認してもらった。賃貸住宅のため家主の許可をもらうのに大分時間がかかったが、やっと完成し明日から喜んでもらえると思うとこちらまで何かしら

定例会のお知らせ

4月 日時：4月4日(土) 午後1時30分
場所：大阪市立社会福祉センター3階305

5月 日時：5月9日(土) 午後1時30分
5時

内容：学習会「健康住宅について」
講師：藤田氏(ホームアイ)

「ほたる草」の作成方法を変えました。今までは朝日新聞さんの機械を使わせてもらっていましたが、今回から市販の編集用ソフトを使用することにしました。使用方法にまだ慣れていないので、満足はいく出来ではありませんが、今後ますます「ほたる草」を充実させて行きたいと思っています。良いアイデア等受付中。未熟者ではありませんが、未永くお付き合いです。 (和泉)

事務局だより

解決策として、膝の曲げ伸ばしが負担になるため、段差解消台と手すりの設置を検討した。上がりも壁に手すりを考えたが、地に置いているロッカーが壁をさえぎる、設置は困難。しかもロッカーは普段使っており、扉の開閉がある。すると、従来の長方形型の段差解消台では机までの距離があり、アプロロチが難しい。そこで、台形型の段差解消台と逆U字型鉄パイプの特注ですりを取り付けることにした。(手すりに関しては多くの会員のアイデアと鉄工所の協力があつた。)

D 初め作業に行かせてもらいました。(和泉)

大工仕事なんてとても無理と思っていたこの私でも何とかお役に立てたようです。依頼者のご家族は物静かな方で、当日はあまりお話しもされず、こちらも黙々と作業を行ったにもかかわらず、トイレと浴室の取り付作業に4時間程かかりました。手すり一つ取り付けるにしても、難しいものだなと改めて感じました。後の掃除も丁寧に行い充実した一日でした。

(真国・新開・河元・和泉・木村・東洋金属(株)他)



手すりの下地材の下穴あけ